越前市におけるブラジル人児童へのオノマトペ習得支援

福井県立武生高等学校　伊吹建人　髙島佑季　越﨑智己

Abstract

The purpose of this study is to promote familiarity with the Japanese language among Brazilian children living in Echizen City. Based on our previous study, *"Learning Support for Brazilian Children in Echizen City,"* and interviews indicating that Brazilian children have difficulty understanding onomatopoeia, we conducted a survey on supporting the acquisition of onomatopoeia among Brazilian children in the city. First, we visited Takefu Minami Elementary School and conducted a questionnaire survey and test targeting third to sixth graders. Next, we assessed the current state of learning for Brazilian children in a class organized by the Echizen City International Exchange Association, and at the elementary school. Based on these surveys and reviews of relevant literature, we decided to create a "Web page about onomatopoeia" for Brazilian children of all grades attending elementary school and proceeded with the development of a prototype to present to the Echizen City Hall.

1　はじめに

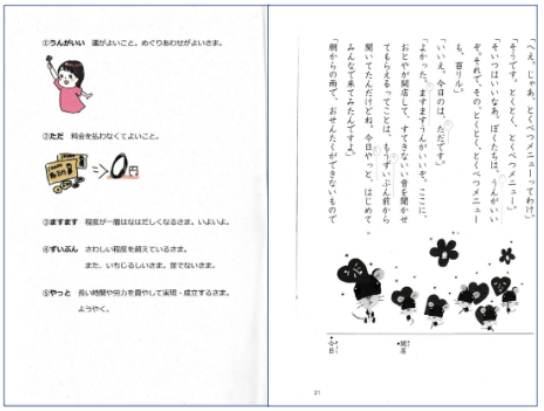
本研究の目的は、ブラジル人児童のオノマトペ習得を支援することで、彼らの日本語力を向上させ、日本での生活をより楽しく、充実したものにすることである。これにより、SDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」に貢献することを目指す。なお、本研究では、オノマトペの意味を十分に理解し、自ら使用できるようになることを「オノマトペ習得」とする。

1.1　現状

越前市における外国人居住者数は近年増加傾向にあり、令和6年12月現在で5,622人に達している。これは、市の総人口の約7%にあたり、全国平均（2.18%）を大きく上回る。また、外国籍市民を国籍別に見ると、同時点でブラジル人が4,504人と、全体の約71%を占めている。そのため、多くのブラジル人児童が市内の小学校に通っているが、彼らの多くが国語の学習に困難を抱えているという現状も見受けられる。

1.2　先行研究

先行研究においては、地域の小学校に通うブラジル人児童を対象に、国語の教科書の文に簡潔な説明を加えた教材（以下：補助教材）を制作・提供する学習支援が行われた。その結果として、「ブラジル人児童の学習意欲、学習効率、日本語読解能力の向上に加え、日本語特有の表現や日本文化、教材に対する理解が深まった」と結論づけられている。この結果から、ブラジル人児童に対する補助教材を用いた支援は、一定の効果を示したと考えられる。また、同校の卒業生でもある研究者は、「ブラジル人児童は、国語の学習の中でも、特にオノマトペを苦手としているように感じた。」と述べている。



本研究で作成した教材　　元の教科書

図1　先行研究で制作された補助教材

2　問いまでの流れ

越前市の現状および先行研究をふまえ、ブラジル人児童への学習支援の一環として、オノマトペの習得を支援するということに興味を持った。まず、「オノマトペ習得の支援が実際に必要とされているのか」ということを明らかにするために、オノマトペの定義や教育現場における指導の現状について調査を行った。なお本研究は、先行研究に引き続き、武生南小学校の教員および児童の皆様のご協力のもと実施した。

2.1 オノマトペとは

オランダの言語学者マーク・ディングマンセは、オノマトペを「感覚イメージを写し取る、特徴的な形式を持ち、新たに作り出せる語」と定義した。まず、「感覚イメージ」について説明する。日本語で「感覚を表す」言葉というのは、一般的には形容詞である。「鮮やかな」は視覚、「うるさい」は聴覚、「熱い」「重い」は触覚というように、形容詞の多くは感覚的特徴を表す。一方で、名詞は「音」「味」といったように、感覚ではなくある対象を表す。オノマトペは、「にゃー」「パリン」のような聴覚情報や「ピョン」「ヌルッ」のような触覚情報、「ドキドキ」「がっかり」のような身体感覚や心的経験を表す。このように見ると、オノマトペは形容詞と同様に感覚の言葉であるのだ。次に、「写し取る」についてだが、これはアイコンが似た事例である。インターネット上での会話で頻繁に使用される、笑顔や驚きを表す絵文字もアイコンである。絵文字や顔文字は、「嬉しい」や「悲しい」といった感情を視覚的に表現する。一方で、オノマトペでは言語を通した音で表現する。オノマトペが感覚的にどういう意味かわかるといった経験はあるだろう。それはつまり、オノマトペが持つアイコン性が大きく関わっているのである。

2.2 オノマトペの重要性

私たちは、日常生活でオノマトペを頻繁に使用している。しかし、日常会話にオノマトペが必要不可欠かと言われれば、必ずしもそうであるとは言えない。また、意識してオノマトペを使っている者もほとんどいないだろう。そのため、オノマトペが私たちの言語活動を豊かにするということは感覚的な見解であり、根拠を持って、オノマトペが重要な役割を果たすものだと断言することは難しい。そのため、視点を変えて教育の場におけるオノマトペに焦点を当ててみることにした。ここでいう教育の場というのは小学校での授業である。実際、小学校の国語の教科書には、一学年平均で70種類のオノマトペが登場していた。この結果から、かなり多くのオノマトペが使用されているということがわかった。そのため、少なくとも小学校の国語の学習においてはオノマトペは大きな役割を果たすものであり、習得しなければならない要素であるということがわかった。

2.3 オノマトペ教育の実態

2.2で国語の教科書にオノマトペが多用されていることが明らかになったが、オノマトペについて学ぶ機会はあるのだろうか。生越(1989)は、外国人用の初級の教科書に取り上げられているオノマトペは、「しっかり」「だんだん」「どんどん」「はっきり」「ゆっくり」だけであると述べている。つまり、日本語教育全体ではオノマトペは積極的に取り上げられていないのである。そのため、小学校でも同じことが起きているのではと考え、2.2と同様、小学校で調査を行った。その結果、小学校の教科書にはオノマトペに関する単元が全学年合わせて1単元のみであるということが明らかになった。また、調査先の小学校にはブラジル人児童に対する学習教材はあるものの、オノマトペに関する教材は見あたらなかった。そのため、小学校でもオノマトペの学習は積極的に行われていないということが明らかになった。

2.4 オノマトペとブラジル人児童

ここで、ブラジル人児童への学習支援というところに観点を戻す。ここまで、オノマトペについて調査を行ってきたが、2.2で述べたように、オノマトペを習得するということは、日本語の上達に対して効果的であるといえるだろう。そのため、小学校教育で深く扱っていないということも考慮すると、支援を行うということ自体は意味のあることだと考える。しかし、支援を要するかということに対しては、確証が持てない。実際に、小学校の先生方は、「ブラジル人児童にオノマトペをどう教えてよいか不明である。特に擬態語が難しい。」といったように、教えるのにかなり苦労しており、また、1.2で述べたように先行研究でも、ブラジル人児童がオノマトペを苦手とするということが示唆されていた。しかし、これらにははっきりとした根拠がなく、本当にブラジル人児童がオノマトペを苦手としているかはわからない。そのため、「オノマトペがブラジル人児童にとって本当

に難しいのか」という調査は後に行うことにして、この時点では、「ブラジル人児童はオノマトペを苦手とする」と仮定した。

3 問いと仮説

ここまで、オノマトペの定義付けやオノマトペの教育について調べてきた。オノマトペ習得は、日本での生活において重要であるにも関わらず、教育が積極的ではないという現状が明らかになった。生まれながらにして、日本語に触れ続けている児童にとっては特に問題はないが、そうでないブラジル人児童にとってはオノマトペ習得は難易度が高くなる可能性がある。したがって、オノマトペ習得支援を行うことが日本語力の向上につながると考え、このことに焦点を当て、研究を進めることにした。そこで私たちは、以下の問いを設定した。

「ブラジル人児童のオノマトペ習得にはどのような支援が効果的であるのか」

次に、仮説を立てた。1.2で述べたように、「国語の教科書の補助教材を作ることは効果的であった」という研究結果が出ているため、オノマトペを詳しく説明する補助教材を作ることが効果的だと考えた。また、小学校の先生方は擬態語の説明に困難さを感じているということが明らかになっている。そのため、ブラジル人児童は擬態語を苦手とすると仮定して、擬態語中心の補助教材が効果的であると考えた。仮説の内容は以下である。

「擬態語中心の補助教材が効果的である」

4 調査方法

以下の二つの調査を行った。

(調査1)ブラジル人児童が在籍する小学校でのテスト・アンケート

- 場所　:武生南小学校
- 対象　:小学3年生～6年生の児童290人
  (内ブラジル人児童21人)
- 実施日:令和6年7月の第三週
- 形式　:グーグルフォーム

この調査では、ブラジル人児童がオノマトペを苦手とすることを再確認した上で、擬態語と擬音語、絵選択問題と文章穴埋め問題の正答率を比較して、ブラジル人児童が苦手とするオノマトペの形式を明らかにすることを目標とした。そのため、テストは文章穴埋め問題8問、絵選択問題8問の計16問を出題し、それぞれ、8問のうち半分は擬音語、残り半分は擬態語とした。問題内容については、難易度に偏りがないように、小学校の先生と話し合った上で決定した。

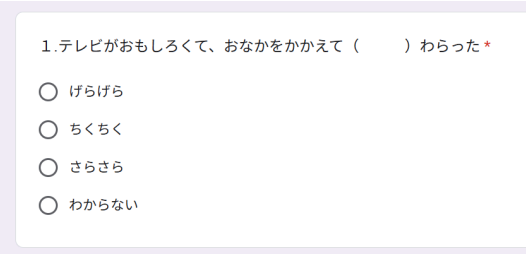


図2　文章穴埋め問題の例

図3　絵選択問題の例

(調査2)放課後にブラジル人児童の学習の様子を観察

- 場所:放課後子ども教室
  (開催場所:大虫公民館)
- 対象:ブラジル人児童1年生～6年生
- 日時:毎週火・木・土曜日

この調査では、実際にブラジル人児童の学習の様子を観察し、どのような支援方法が適切であるかを検討した。そのため、宿題へ取り組む時間だけでなく、自由時間の観察も行った。

5 結果

（調査1）

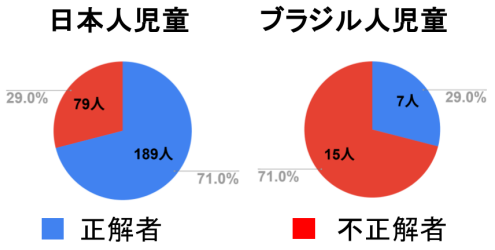


図4 テスト結果（正解者と不正解者の内訳）

上のグラフは、正解者と不正解者を日本人児童とブラジル人児童に分けてグラフにしたものである。このグラフから、ブラジル人児童はオノマトペが苦手であると判断することができるだろう。単に、国語が苦手であるという解釈も否定できないが、そもそも、国語を苦手とする理由の一つにオノマトペがあると考えることができる。そのため、「ブラジル人児童はオノマトペを苦手とする」という仮定は正しいものとし、研究を進めることにした。

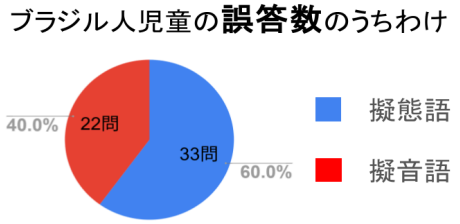


図5 テスト結果（擬態語と擬音語の比較）

次に、ブラジル人児童が間違えた問題を、擬音語と擬態語に分けたグラフが上のものである。擬態語を教えることに苦戦をしているという小学校の先生方のご意見はあったが、この調査からは、擬態語が擬音語より難しいと判断できなかった。

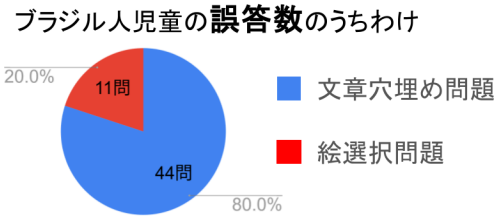


図6 テスト結果（絵の問題と文章問題の比較）

このグラフも、上のものと同様、ブラジル人児童が間違えた問題を抽出したものであり、絵の問題と文章問題の誤答数を比較した。この調査から、絵の問題は文章問題に比べて、難易度が低いということがわかった。

（調査2）

この調査で以下のことが明らかになった。

- 日本での滞在歴の差で、ブラジル人児童の日本語理解力に個人差がある。
- 日本語理解力が低いブラジル人児童は、レベルの低い特別な教材を使う。
- 日常会話レベルの日本語が話せる児童は、外国人児童向けの辞書などの学習用の書籍をほとんど使っていない。
- ブラジル人児童は、勉強時も自由時間でも学校支給のタブレットを頻繁に使用する。

特に、支援方法について考える上で重要な要素となったのが、「日常会話レベルの日本語を話せる生徒もいる一方で、滞在歴の短い児童は会話にサポートが必要である」ということや、「学校支給のタブレットを頻繁に使用する」ということである。

6 考察

調査によって以下のことが明らかになった。

- ブラジル人児童の擬音語と擬態語の理解力に大きな差はない。
- ブラジル人児童にとって文章より絵のほうが、オノマトペをイメージすることが容易である。
- 日本での滞在歴の差によって、ブラジル人児童の日本語理解力に大きな差がある。
- ブラジル人児童は、勉強時も自由時間でも学校支給のタブレットを頻繁に使用する。

これらのことから、支援方法について考察した。仮説では、擬態語中心の補助教材の提供としていた。これに対して、まず、オノマトペが小学校の授業で優先的に学習されていないのにもかかわらず、補助教材を作るという矛盾が生じていた。そのため、ブラジル人児童にとって補助教材ではなく、独自の教材を作る必要がある

と考えた。また、調査により、ブラジル人児童にとって擬態語と擬音語の難易度が大きく変わらないということも明らかになったため、擬態語のみの教材だけでなく、擬音語と擬態語をともに学習できる必要があることがわかった。しかし、オノマトペの数が膨大な量になってしまうので、網羅的に学習するのは不可能である。そのため、ブラジル人児童が、わからないオノマトペを調べるということをメインにする必要がある。

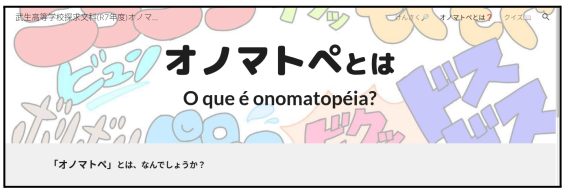
また、絵を用いたほうが理解度が高まることや、普段からサイトを利用して調べることに慣れていることから、Webサイトやアプリケーションの教材を作ることが適していると考えた。それに加え、ブラジル人児童の日本語力にも差があるため、ポルトガル語翻訳をつける必要があると考えた。

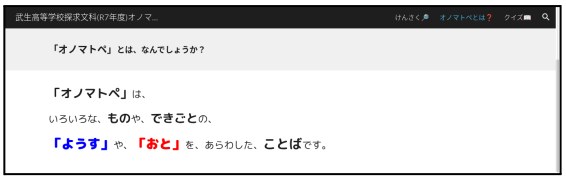
ここまでの内容を以下のようにまとめた。

・補助教材の提供はオノマトペ習得支援の方法として適していない。
・Webサイトやアプリケーションでのオノマトペ習得支援が適している。
・ポルトガル語翻訳を付けることで、日本語理解力が低いブラジル人児童が、内容を理解できるようにする。
・わからないオノマトペを調べることを主な用途とする。

また、学校支給のタブレットには規制がかかってしまい、アプリをダウンロードできないといった問題が発生する可能性があることに加え、アプリでは、ダウンロードをした人にしか利用できないという難点もある。そのため、上記の内容も含め、検索式のWebサイトが教材として適していると考えた。

⇓試作品（公開は2026/3/31まで）
https://sites.google.com/fukui-ed.jp/onomatope-takefu2025?usp=sharing





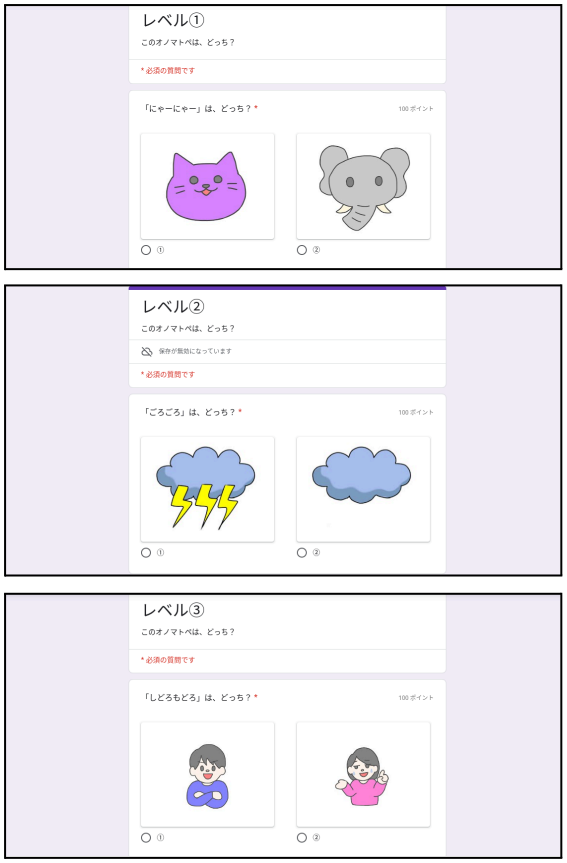


図7　Webサイトの試作品

試作品における課題点

・オノマトペ検索システムの実装には至らなかった。
・音声再生（スピーカー）機能を搭載することができなかった。
・全文にポルトガル語訳を付けることができなかった。

7　まとめ

越前市には、多くのブラジル人児童が在住しており、その多くが日本語の学習に不安を抱えている。そして、彼らの日本語学習への不安を構成する一つの要素がオノマトペである。しかし、現状、オノマトペは優先的に学習されていない。そのため、私たちは、オノマトペの習得に対して支援を行うことを決めた。支援方法を検討するために、実際の小学生を相手に、日本語学習の現状を調査した。その結果、webサイトを用いた支援が適切であると考え、試作品を制作した。

8　今後の展望

今後は、越前市役所教育振興課へのWebサイトの提案に向けて、Webサイトの完成を急ぐとともに、よりわかりやすいオノマトペの説明方法を検討していきたい。また、外国人児童の日本語学習における課題について理解をさらに深め、オノマトペ習得における困難を軽減することで、彼らの日本での生活がより良いものとなるよう支援を続けていきたい。

9　謝辞

本研究を進めるにあたり、現在のブラジル人児童教育に関して多くの知見をご提供いただいた大虫公民館の職員の皆様、越前市立武生南小学校の教職員の皆様、ならびに越前市役所教育振興課の田中梨絵様に、心より感謝申し上げる。

参考文献

・武生高等学校(2024)「越前市におけるブラジル人児童への学習支援」
https://x.gd/x4ogv
・黄慧(2011)「オノマトペの基本語彙に関する一考察:『現代日本語書き言葉均衡コーパス（2009 モニター公開版)』を用いて」
https://tufs.repo.nii.ac.jp/record/3570/files/isre015002.pdf
・魏達因,柳澤浩哉(2021)「オノマトペの難易度の影響要因とオノマトペ自然習得の可能性の一考案」
https://www.jstage.jst.go.jp/article/nhhggbkkk/5/0/5_11/_pdf/-char/ja
・ジノッキョ・ガブリエラ(2022)「スペイン語を母語とする日本語学習者のオノマトペに関する認識および知識の深さ」
https://tufs.repo.nii.ac.jp/record/911/files/01_mt_1525.pdf
・小倉慶郎(2016)「日英オノマトペの考察:日英擬音語・擬態語の全体像を概観する」
https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/56957/?lang=0&mode=0
・渡邊裕子(1997)「日本語教育におけるオノマトペの扱いについての一考察」
https://hyogo-u.repo.nii.ac.jp/record/2960/files/AN100700980090003.pdf

・吉永尚(2019)「オノマトペの語形パターンに関する一考察」
https://x.gd/6C00h
・吉永尚(2020)「撥音終止オノマトペに関する考察」
https://x.gd/DbT3E
・神村初美(2021)「体調に関するオノマトペは自然習得が可能なのか―外国人住民への調査を中心に―」
https://tokyo-metro-u.repo.nii.ac.jp/record/9784/files/20022-041-003.pdf
・香林隆子,増永良文(2002)「オノマトペのオンライン多言語辞書の構築」
https://www.ieice.org/iss/de/DEWS/proc/2002/presentations/A4-4.pdf
・光元聰江,岡本淑明,湯川順子(2006)「外国人児童のためのリライト教材・音読譜による国語科の指導」
https://core.ac.uk/download/pdf/12546387.pdf
・光元聰江(2014)「取り出し授業と在籍学級の授業とを結ぶ「教科書と共に使えるリライト教材」」
https://www.jstage.jst.go.jp/article/nihongokyoiku/158/0/158_19/_pdf/-char/ja
・岡谷英夫(2015)「小学校国語教科書に見るオノマトペと日本語教育」
https://www.jstage.jst.go.jp/article/tjsai/30/1/30_30_257/_article/-char/ja/
・三上京子(2007)「日本語教育のための基本オノマトペ選定とその教材化」
https://icu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=306&item_no=1&page_id=13&block_id=17
・山川拓也,塩野康徳,吉住寿洋(2024)「アクセシビリティを改善するための要約文に基づくWebページモデル」
https://ipsj.ixsq.nii.ac.jp/ej/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=235792&item_no=1&page_id=13&block_id=8
・西見真衣子(2016)「オノマトペの果たす役割と効果について」
https://atomi.repo.nii.ac.jp/record/1407/files/atomi_com10_19.pdf
・金萌,多川孝央(2020)「外国人日本語学習者を対象とした多義オノマトペのe ラーニング教材の開発手法について」
https://www.ipsj-kyushu.jp/page/ronbun/hinokuni/1009/Papers/C2-3.pdf
・黄慧(2024)「小説におけるオノマトペの使用特徴-ミステリー小説に焦点を当てた予備的調査-」
https://tufs.repo.nii.ac.jp/record/2000368/files/jilr28_Note_Huang.pdf
・三上京子(2009)「日本語オノマトペとその教育(第三章オノマトペの実態)」
https://waseda.repo.nii.ac.jp/record/24794/files/Honbun-4454_03.pdf
・平田佐智子(2012)「日常会話におけるオノマトペ使用に関する調査」
https://www.jstage.jst.go.jp/article/pacjpa/76/0/76_2AMA40/_pdf/-char/ja
・石本麻奈,山本真由美(2021)「乳幼児のオノマトペと成人語の使用と理解の発達:保護者への意識調査と保育場面の観察を通して」
https://tokushima-u.repo.nii.ac.jp/record/2009559/files/jhs_29_47.pdf
・山田丈美,林美里,梅田裕介,八桁健,市野悦子,水野友有,中島賢介,田邊圭子,髙村真希,別府悦子(2023)「言語獲得期におけるオノマトペに関する研究-身体性と相互コミュニケーションを中心に」
https://x.gd/PMBT7
・山田丈美,林美里,八桁健,梅田裕介,水野友有,ダーリンプル規子,中島賢介,田邊圭子,髙村真希(2022)「発達的観点からみたオノマトペの研究-言葉を生み出す過程-」
https://chubu-gu.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=593&file_id=22&file_no=1
・近藤綾,渡辺大介 (2023)「保育者が用いるオノマトペの世界」
https://hiroshima.repo.nii.ac.jp/record/2029389/files/HPR_8_255.pdf
・上原郁美,山本真由美(2015)「保育場面における保育者のオノマトペ使用に関する意識」
https://tokushima-u.repo.nii.ac.jp/record/2003275/files/LID201704202001.pdf
・武田道子(2015) 「幼児の生活に見られるオノマトペ～音楽的意義と活用への一考察～」
https://tokoha-u.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=1443&file_id=22&file_no=1
・谷口ジョイ,桑原大輔(2024)「日本語学習者によるオノマトペ習得についての探索的研究」
https://shizuoka.repo.nii.ac.jp/record/2000506/files/7-0157.pdf
・グエン, ティタイントゥイ(2018)「日本語学習者の日本語オノマトペ産出の実証的研究:ベトナム語母語

話者と中国語母語話者を比較して」
https://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/hermes/ir/re/297
47/lan020201800303.pdf